

新しい日本を構想する

主催：野村総合研究所 2009年10月14日 会場：中京大学文化市民会館

野村総合研究所（NRI）は、名古屋、東京で標題のフォーラムを開催した。2003年から東京を中心に毎年開催してきた本フォーラムの名古屋での開催は今回3年目で、過去最高の約1500人の参加を得た。

■講演①「日本と世界経済の現状と展望」（NRI 主席研究員 リチャード・クー）

2008年の米国での住宅バブル崩壊は、1990年代の日本と重なる。当時の日本は、財政出動を続け内需拡大を図ったことからバブル崩壊後もGDP（国内総生産）は拡大し、世界で初めて戦争をせずに恐慌から脱出した。この日本の経験を世界の人に伝え、早い段階で世界経済を好転につなげていくべきである。

■講演②「日本人のDNAが造る持続可能社会」（NRI研究理事 椎野孝雄）

日本企業は、資源やものを無駄なく使いたいという思いから発想し技術開発を行い、世界をリードしてきた。この考えの根底には、古来からの「ものを敬う心」という日本人のDNAがある。これらの伝統や文化を誇りに思い、次世代に伝えていくことで持続可能な社会を造ることができる。

■パネルディスカッション「次の日本を創るために」（パネリスト：工業デザイナー 奥山清行氏、東京ガールズコレクションチーフプロデューサー 永谷亜矢子氏、映画監督 紀里谷和明氏、NRI 名古屋オフィス代表 奥田誠、モデレーター：ジャーナリスト 池上彰氏）

奥山氏）イタリアで車や工業デザインを手がけ、現在は山形の地場産業を現代に活かす商品開発をしてきた。「仕方なく買うもの」よりも「欲しくて仕方ないもの」を、「どういうものをつくりたいか」

よりも「どういうことを実現したいか」という考え方に变えていくべきである。そして、物事を考えるときには実際に手を動かすことが大切である。

永谷氏）従来のファッションショーのスタイルを超え、若い女性たちが共感・共鳴し参加ができ、さらに販売促進にもつながる仕掛けを追求してきた。若い人たちは、やる前から自分で決めつけ、実行することを恐れてしまっている。実現に向かって具体的に一つひとつアウトプットしていくべきである。

紀里谷氏）日本人は、シミュレーションなどを考えすぎて、足がすくんで前に進めなくなっているのではない。経済対策にしても、何のために行うのか、目先の利害にとらわれず、一度原点に立ち返って考えてみる必要がある。一人ひとりが考え、ビジョンを持って行動していくことが大切ではないか。

奥田）アンケート結果では日本の将来に不安を感じている傾向が見られるが、隣の中国では、電気自動車などをつくる新しい会社が、毎月のように生まれている。今は新しい変革に向けて真剣にチャレンジしていくべき時代。これまでの日本の技術や経験があればもっとよいものができる。

池上氏）新しい日本を創るためには、変革を恐れずに、真にやりたいことをやっていこう。それには目標をつくり、その目標に向かって小さな努力を惜しまず、スケジュールを立てて前に進んでいくことが大切である。

本フォーラムについてのお問い合わせは下記へ
コーポレートコミュニケーション部

墨屋宏明

電話：(03) 6660-8370 メール：kouhou@nri.co.jp